

高山の朝市

全てが破壊された敗戦後の日本。誰もがまともな生活をするには困難な時代であった。物資や食糧の不足は長きに渡って続き、日本各地で闇市なるものが必然的に発生していった。ここ高山市も同じであった。陣屋前、別院前、鍛橋詰などがそうであった。

しかしもともと飛騨高山は朝市として江戸時代から米市・桑市・花市などの市として発展していた。明治中頃から農家より野菜が並べられ次第に朝市の形態が出来上がって行った長い歴史があるのだ。

現在では陣屋前広場の朝市と宮川沿いの朝市の2か所で開かれ賑わいを見せている。しかし時代は大型スーパーやホームセンターなどの出店により、近年には地元客の足は次第に遠のいて行った。

客足の減った中で世はまさに観光ブームが到来。素朴なモンペ姿のおばさん達の店には新鮮な野菜、漬物、果物はじめ、地元産の食品から民芸品に至るまで高山物産店となっている。

私はこれまで輪島朝市（石川県）に行ったことがある。生きたウニをスプーンで食べて100円であった。その味は今でも忘れられない。全国にはこうした朝市が観光客にとって大きな魅力となっている。佐世保朝市（長崎県）、師崎漁港朝市（愛知県）、仙台朝市（宮城県）、七間朝市（福井県）、網走感動朝市（北海道）など例を上げればきりが無い。

宮川朝市で私は漬物「赤かぶら漬」を買った。土産物には多少当たり外れがあるものだが、正直言って赤かぶら漬は本当に美味しかった。また食べてみたい。

撮影 2010 年冬

